

# 有田中央高等学校

実施日時	令和4年 1月 28日（金）
参加者	生徒68名、教職員14名 計82名
実施内容	防災クイズ、避難持ちだし袋、新聞スリッパ、動画視聴、県防災ナビ 等

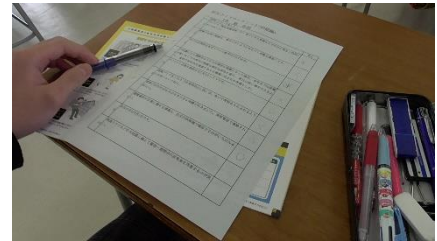
## ねらい

- 1 防災についての正しい知識と地域の防災のあり方について理解を深める。
- 2 自助、共助の意識を高め、起こりうる災害に備え、高校生ができる支援活動について自分たちにできることを考えさせる。
- 3 過去の震災を振り返り、そこから得た教訓をもとに、災害から命を守るためにひとりひとりが実践できることを身につける。

## 主なプログラム・概要

### 1 防災クイズ

「KOBE 防災ポータルサイト」より防災クイズ（初級編、中級編）の解答と解説。「なぜか？」を考えさせながら、解説を行った。上級編は各自サイトでチャレンジしてみるようにすすめた。防災意識や災害に備えるための正しい知識についてクイズ形式で取り組み理解を深めた。



### 2 防災グッズ製作と避難持ち出し袋の準備

新聞紙を使い、簡易スリッパの作成。製作したものを安全に使用するために段ボールを使用するなどの工夫を考え、実践した。また、緊急時に持ち出す物として必要なものは何かを話し合い、持ち出し袋を各グループでカバンに詰め込ませた。その後で防災ハンドブックのなかから非常持ち出し品リストと非常備蓄品リストの確認を行った。



### 3 DVD 視聴

防災教育シリーズDVD「どう向き合えばよいの？南海トラフ巨大津波～大津波の経験を伝えたい」の視聴。町が津波にのみ込まれていく場面や遺族のコメントなど、自分たちが被災者となった時、どのように行動し、



命を守るのかということをはひとりひとりが考えさせられる内容だった。また地震のメカニズムについても理解を深めることができた。



#### 4 防災ナビ

和歌山県防災ナビのアプリを閲覧。避難先や防災情報、ハザードマップなどの確認。避難カードの作成。緊急連絡先や避難先などを各自確認し、カードに記入した。最後に防災アプリを見て、どの機能がとくにおすすめか、また防災ナビをみてわかったこと、家族や友人とも共有したい機能などを出し合い、まとめとした。

#### 参加者感想文

- ・東日本大震災などの映像で地震と津波の怖さと自分の命を大切にすることがとても大切だということがわかりました。
- ・避難準備をきちんとし、いつでも逃げられるようにしていこうと思いました。いろいろな情報を持つことが大切だとわかった。
- ・クイズで初めて知ったことも多かったので自分でも防災について調べた方がいいと思いました。
- ・家族で話し合うことが大切だと思いました。避難場所を確認しておきたいです。
- ・防災ナビは防災についてたくさんの情報が詰まっているのでアプリをいれたままにしておきたいです。
- ・家に帰ってから防災について考えたり、防災グッズを用意したり家族で話したいと思った。
- ・防災ハンドブックはもしもの時、どんな行動をしたらいいかわからなくなったらとても役立つそうだと思った。

#### 成果と課題

【成果】 防災ハンドブック、防災ナビなどを有効活用し、生徒の理解を深めることができた。どの内容も生徒は前向きに取り組み、防災についての意識を高めることができた。正しい知識を共有し、とっさのときに正しい判断ができる力を養っていくための学習となった。

【課題】 新型コロナウイルスの感染が拡大していたため、校内だけの活動となった。はじめの計画では、起震車体験、地域の建設組合・振興局の防災授業、NPO 神戸の絆 2005 から語り部講演などを予定していた。校内だけの活動でも有意義な内容ではあったが、縮小した形となり残念だった。オンラインなど新しい形で地域や外部との関わりをすすめていく方法を模索したい。また 1 日だけの学習にとどまることなく、社会に貢献できる人材を育成するためのプログラムについて今後計画していく必要があると感じた。